

参考資料

		日本		米国		台湾	
大学総数		1212	278万人	4000	1730万人	162	112万人
	四年制	744	258万人	2600	1080万人	145	94万人
	二年制	468	20万人	1600	650万人	17	18万人
国立大学		95	45万人	なし	なし	52	24万人
	四年制	87	45万人	なし	なし	49	24万人
	二年制	8	0.06万人	なし	なし	3	1.5万人
公立大学		129	14万人	1700	1300万人	2	0.6万人
	四年制	89	13万人	700	680万人	2	0.6万人
	二年制	40	1万人	1000	620万人	0	0
私立大学		988	219万人	2500	430万人	108	86万人
	四年制	568	200万人	1900	400万人	94	70万人
	二年制	420	19万人	600	30万人	14	16万人
大学院生			24万人		220万人		0.7万人
総人口		約1.3億人（世界10位）		約3億人（同3位）		約0.23億人（同47位）	

アメリカは、大学生の数が多。特に、基本的にだれでも入れる二年制の公立大学（コミュニティカレッジ）に通う学生が多い。

アメリカは専門教育を大学院で行なう伝統があるため大学院生数も非常に多い。

米国	義務教育 基礎教育			教養教育	専門教育 高度専門教育
	小学校	中学校	高校	大学	大学院
日本	義務教育 基礎教育		受験教育 教養教育	教養教育 専門教育	高度専門教育

アメリカの高校の学習レベルは、日本の中学校の学習レベル

アメリカの大学2年生の学習レベルは、日本の高校3年生の学習レベル

	日本	米国	台湾
レベル	国立>私立	私立>公立(州立)	国立>私立
University College	区別なし(名称の上では、 単科大学と総合大学が区別 できる)	総合大学:研究・大規模/ リベラルアーツカレッジ: 教養、実用教育・小規模	大学:研究、教養教育・大 規模/技術学院:実用教 育・小規模
入学試験	一斉テスト/面接	主に書類審査	一斉テスト/面接
退学者	少ない(留年できる)	多い(平均70点以下が二学 期続くと強制退学)	学校によって異なる(経済 的な事情が多い)
卒業率	非常に高い	低い(10%以下の場合あり)	高い
編入・転学	少ない	多い	やや多い
教育の選択肢	少ない(入学時に専門を決 める)	多種多様(学びながら自分 で選ぶ)	少ない(入学時に専門を決 める)
教育の方法	学生の自主性重視	学校の教育サービス重視	学校の教育サービス重視
授業方式	講義が中心	討論が中心	教員によって異なる
重視される点	専門知識	オリジナリティ	?
成績	優 良 可 不可 ※(5段階)	A B C D F (5段階)	100点法
評価	教員によって異なる	厳しい	基本的にゆるい
生活面の指導	基本的に指導しない	ケア・サービスが充実	学生の生活指導をする
責任の所在	自己責任	自己責任	?
出席	教員による(主にゆるい)	厳しい	厳しい
遅刻	やや厳しい	厳しい	ゆるい
締め切り	厳しい	非常に厳しい	ゆるい
予習の量	しない学生が多い	必要とされる量が多い	しない学生が多い
テスト	期末テストのみ	中間・期末	中間・期末
小テスト	基本的にない	多い	ある
宿題	基本的にない	多い	ある
レポート	少ない(学期に1本程度)	多い	少ない

米国：質の高い授業、勉強しやすい環境、個人的な問題のサポートなど、十分なサービスを提供する。一方、評価は厳しく、成績の低い学生は退学となる（自己責任）。

日本：勉強は、学生の自主性にまかされる。自分から積極的に要求しなければ（例えば、質問をする、書籍や資料を借りに行くなど）指導は受けられない。（自己責任）